

日中友好新聞

京都府連版

第326号

日中友好協会京都府連合会

〒602-8026 京都市上京区新町通丸太町上ル 機関紙会館ビル302号

TEL&FAX 075-256-2764 <http://www.nichukyoto.gr.jp> info@nichukyoto.gr.jp

第43回「平和のための京都の戦争展」

盛況のうちに閉幕―目白押しだった話題の展示や講演―

第四十三回「平和のための京都の戦争展」は八月一日から六日の六日間の日程で、長浜バイオ大学京都キャンパスを会場に開催されました。本展のほかにも一つの「特別企画」と別会場での企画を含め、千五百人以上が来場し、子ども向けの催しに参加する小学生の姿もありました。

●ウクライナ戦争の終結と、平和をどのように実現するか

ウクライナ戦争が始まって二年目を迎える中で開催される戦争展として、今起きている戦争の実態を知り、どうやって戦争をやめさせるか、その点で過去のアジア太平洋戦争から紡ぐべき教訓はなにかといった喫緊のテーマでの講演・展示が注目されました。ウクライナの戦場で取材を続ける志葉玲さんが「ウクライナ戦争一年の現地から」と題して講演し、ウクライナ側から見た戦場の厳しい現状や、市民の生活について報告しました。また展示会場では志葉さんの撮影した多くの写真も展示されて、生々しい戦場の様子が紹介されました。

特別企画では今年は二つの講演が行われました。山田朗さんは明治以降の日本が軍備を拡張させた時期は他国と軍事同盟を結んだ時期と重なることを指摘して、日米軍事同盟の強化と軌を一にして岸田大軍拡が展開されている現状の危険性を批判しました。孫崎享さんは外務省国際情報局長として世界情勢を分析した経験に基づいて、ウクライナ戦争は両軍が対峙している現状の戦線を固定して休戦すべきことを主張しましたが、ウクライナの領土と主権を守るためにロシアの撤退が休戦の条件であるとする参加市民たちと熱い議論になりました。

また実行委員会企画として、戦火を逃れて日本に避難してきたウクライナ人芸術家のユリヤ・ボンダレンコさんの「ウクライナ望郷の窓」と題する繊細な筆致の絵画二点が展示されて、訪れた人々が熱心に見入っていました。
(二ページ目につづく)



ユリヤさん

9・18 柳条湖事件の日を忘れず、日中不再戦を誓う碑前集会

嵐山「日中不再戦」碑前集会

9月16日(土) 11:00~12:00

嵐山・不再戦碑前に集合

講話：清水寺大西英玄師

碑前集会のあと、花の家での懇親会(会費3,000円)

があります(参加希望の方は事前にご連絡ください)。



「苦干」の上映と重慶大爆撃の歴史的意味の解明

私たち日中京都府連は、満州からの引き上げ体験者の黒田雅夫さんが自らの体験を絵で綴った絵画集を上梓する機会に黒田さんの絵画展を行い、また「支える京都の会」と共同で学術企画として、伊香俊哉さんを迎えて「カラー記録映画『苦干』」に映された重慶大爆撃―都市無差別爆撃の連鎖―を行い、「支える京都の会」は「重慶大爆撃」をテーマに展示も行いました。

重慶大爆撃をめぐる伊香俊哉さんの講演は第二次世界大戦において本格化する「戦略爆撃」の歴史と、戦略爆撃をめぐる日本の加害と被害の実相をわかりやすく解き明かしていました。

ゲルニカで有名な都市無差別爆撃が、第二次大戦にヒトラーによってロンドンなどヨーロッパの都市に対する大規模な爆撃に発展し、四三年以降は逆に連合軍のベルリンやドイツ各都市への爆撃を呼び込みました。アジアでは日中戦争で日本軍が重慶・蒋介石政府に対して行った無差別爆撃への反撃として、太平洋戦争後半のアメリカによる日本の都市への爆撃が展開されて、東京大空襲、広島・長崎への原爆投下という惨禍を招きました。これらの爆撃はどれも戦闘員ではない大勢の都市市民を狙った無差別殺傷であって、重大な戦争犯罪ですが、第二次大戦後、枢軸国の犯罪を裁く戦争裁判においてその罪が問われることはありませんでした。連合国にとって枢軸国の犯罪を立証しようとするれば、その結果は直ちに自らの戦争犯罪に跳ね返ってくるからです。

「戦略爆撃」とは、陸軍などの地上部隊が相手領土を占領して勝利を確定する戦いではなく、空からの無差別爆撃によって敵国民を虐殺し戦意を喪失させることにより勝利しようとする戦法であり、これを初めて本格的に展開したのが日本軍の重慶爆撃でした。そして日本はアメリカの戦略爆撃による反攻勢を浴びて無条件降伏に追い込まれたのです。



七十年ぶりに再発見された「ドキュメンタリー映画『苦干』」(頑張って生きるの意)は無差別爆撃によっても挫けることのない中国民衆の逞しい生きざまを、その印象深い表情の中にとらえていました。

ウクライナ特集と府連の重慶爆撃に関する企画を中心に述べてきましたが、ほかにも連合軍捕虜の家族の心の傷と向き合った中尾知代さんの研究、映画「昭和回顧録―山本宣治の死」、青空ミカン紙芝居「はだしのゲン」、康宗徳さん「朝鮮戦争はなぜ終結しないのか」など注目すべきパフォーマンスが目白押しでした。

最後に、来年二四年度戦争展は五年ぶりに「国際平和ミュージアム」に戻って開催されます。一年間準備して内容の濃い企画を実現したいものです。

(斎藤 敏康)

展示企画報告「私の経験した戦争」絵画展

絵画の作者は黒田雅夫さん。黒田さんは一九三七年三月七日京都府亀岡市生まれ、一九四四年八歳の時に両親と弟の四人で「廟嶺京都開拓団」に参加、旧満洲に渡られます。今回の「平和のための京都の戦争展」では、一九四四年の渡満から一九四六年の孤児としての帰国までの様子の絵画三十九点と黒田さんから借り受けた資料数点を展示しました。また、絵画展示とともに体験談を語っておられる黒田さんの様子のDVDも会期中不定期ではありますが、紹介をしておきました。

ここでは展示解説文から印象に残った2点を紹介します。

【逃避行の様子】

逃避行は昼間に寝て、夜通しコウリヤン畑を敵に見つからないように静かにひたすら歩きました。体力のない者や病気になる者ほとんど亡くなっていきます。歩けなくなった者は残していくしかありませんでした。それはその人にとって死を意味するものでした。

死んでしまった小さな赤ちゃんをずっと背中に背負ったまま歩く母親。他の者が無理矢理引き離し土に埋めると、すがるようにその場でずっと泣き崩れていました。一団が出発しても、その母親はそこを離れることはありませんでした。

【母親の葬儀】

母親が亡くなった時、不思議と涙は出ませんでした。母親は衣服を剥ぎ取られ、どこかのおじさんが肩を持ち、雅夫は足を持ち死体置き場に運びました。母親の足首は小学校二年生の雅夫の手で握っても

親指と人差し指がくつつくくらい瘦せ細っています。どこかのおばさんが母親の頭髪を小さな袋に入れ、雅夫に持たせてくれました。直ぐに自分たちが寝ていたところに戻ると衣服やすべてのものがなくなっていました。雅夫はこのままでは自分は売られると感じました。当時日本人の子どもはたかくて売りに買われていました。雅夫は売られることを恐れ、すぐに収容所をあとにしました。

戦後七十七年、きなくささの漂う昨今ですが、私たちは過去の歴史に学び、国際連携と市民レベルでの草の根友好交流により平和な世界を創り上げていくことが大切です。

今回の展示のために貴重な絵画と資料をご提供いただいた黒田雅夫さんに深く感謝します。また、暑い中会場で本展示を熱心に見ていただいた皆様に感謝します。これらの絵画については、クラウドファンディングにより今夏、絵本として出版されます。

(清水 郁子)



講演会「カラー記録映画『苦干』に映された重慶大爆撃」参加者の感想

◇日本が加害行為をきちんと精算できていないから、アメリカの戦争犯罪を追求できないことを知りました。日本が加害の歴史をふくめてしっかりと反省していくことが大切だと思います。

◇「戦争は終わっていない」日本の戦争責任問われていると実感。重慶空爆については知識はありましたが、「苦干」を観て、住民の観点で恐怖とともに迫ってくるという貴重な体験をさせていただきました。全編をどうしたら観ることができるでしょうか。

また、日本の都市への空襲、二回の原爆投下につながるという負のサイクルにつながり、現代から未来にもスパイラルとして拡大しているということも理解できました。一方、「地球沸騰」といわれる末期的な状況に、人類は無策です。この愚かさをどう考えればよいでしょうか。

◇戦争の正当化が軍事規律化の中でかくれている。指摘できなくなっているジレンマをどのように解決するのか、世界的な課題であると感じました。

◇カラー記録映画『苦干』が映した重慶大爆撃とその後の講演について、大変学びの多いものとなりました。映画で爆撃と都市が火だるまになっている場面はリアルでショックでした。最後にドローンによる無人機攻撃を真顔で「楽しみにしている」と将校が話しているのを聞いてゾッとしました。

今日、このような貴重な機会を得たことを、また一つの出発点として平和！ No War!の行動をできることからやっていきたいです。

◇「戦略爆撃」論の虚妄、あやまりを聞いた。それ

は、もつとも。一方、映画「苦干」で示された日本軍の非人道性をもつと掘り下げるべきだったのではないか。日中戦争、太平洋戦争における日本の加害性を裁くべきときに戦略爆撃論に一般化された気として残念。

◇「戦争は終わっていない」と訴える日本の犠牲となつた諸外国人に謝罪しなければいけない。

◇都留文科大学の先生というより、防衛大学の先生の講義のようです。というのは、事実は事実ですが、加害の話が多かつたと思います。戦争展という中で立場なら戦争になるまでの防ぎ方があつたか等、被害者の苦しみなどがあまり話がありませんでした。

◇最後にアメリカの美人兵士がテロリスト…の言葉！私は、テロリストはアメリカだと思った！

◇小生の友人、昨年死亡したが、浜松の田代博之弁護士がいます。重慶空爆関係被害補償裁判を担当していたと聞いた。彼からその生前に十分話を聞くことができなかつたが、本日の映像及び資料でよく理解できました。

◇日本人の加害の罪の深さ、重さを多くの人に知らしめ、「空爆被害」の恐ろしさ、残酷性、非人道性を認識すべき。

◇大江山訴訟のその後の動きを正確に知りたいが。

◇重慶の事については知らなかつたので中国の件を改めて知ることとなりました。歴史の事実を勉強できてよかつた。日本軍のしたことを。

◇休憩がなかつたですね。

※今回は被害者の話がなく残念でしたが、伊香先生は、重慶大爆撃の裁判でも専門家証言されて被害者をしつかり支援されています。(編集部)

中国四川省広元市の文化観光交流観光説明会に参加して 上村あきら

二〇二三年八月十日、ハイアットリージェンシー京都（東山区）で開催された「中国四川省広元市の文化観光交流観光説明会」に齋藤京都府連理事長と上村宇治支部事務局長の二名で参加した。

会合には国土交通省近畿運輸局国際部関係者、駐大阪中国総領事館副総領事、JTBなどの旅行会社関係者など総勢八十名程度の参加であった。今回の説明会は、本部経由で書面が届くという、これまで旅行会社経験のある上村から見て、異例のものであった。

この説明会に参加した感想を過去に旅行会社に所属し、現在和歌山大学大学院観光学研究所に所属する立場から今後の提言を含めて、辛口に述べていく。

- 1, 開催通知発送が直近すぎる。
- 開催日時通知に余裕があれば、和歌山大関係者などにも広く周知できたと思われる。
- 2, 地元政府および党関係者のみの参加で観光事情が把握できない。

四川省広元市は成都、西安などから新幹線一時間圏内にあり、かつ空港もあるため交通の便はよく、観光資源も一定程度有している。しかし、説明会開催当日は主催者側等の「挨拶」「動画放映」で説明会を終えたため、会場の立地を生かせず、日本側参加者の欲求を満たすことは九割方、できなかったのではと見ている。

以上のことを踏まえて、京都府連の活動を踏まえながら、今後の説明会の在り方を考えたい。日本側

参加者の欲求を満たすには一定程度、会場側に対しての質疑応答の場を設ける。航空会社、ホテル等の関係事業者も説明会に参加させるなど工夫が必要と考える。

幸いにして京都府連には中国経済、中国文学、観光等の専門家も結集していることから府連が有するネットワークと過去に「文芸晚会」等を開催した企画力を活用すれば参加者を満足させる説明会を開催できたのではと考える。

今回の説明会を通じて、改めて京都府連がこれまで構築したネットワークと経験が今後の日中交流に活用でき、更なる会員拡大に繋がるものになるのではと感じた。また、今後の活動に対するヒントを得たようにも感じる。

『経済』の読書会しました！

八月二十六日、『経済』9月号の読書会が、京都府連事務所で行われました。アットホームな雰囲気、中国経済・社会・日本との関係など、自由な議論がされました。詳しくは次号でご報告します。(編集部)



「アンコール」 藤野真子

クラシックのコンサートのように定例化しては
ないが、中国の伝統劇にもアンコールはある。た
だし、筆者の経験に限って言えば、そうした機会は
非常に少ない。

ところで京劇は北京のものと思われがちだが、実
のところ上海にも全国トップレベルの京劇団（上海
京劇院）がある。その背景には、十九世紀末以降、
商業的成功を求め北方から南下した一部の京劇団が
上海に定着し、観客の嗜好に応じて独自の変化を遂
げてきたという歴史がある。京劇以外にも、蘇州の
崑曲、浙江の越劇、地元の滬劇と多種多様な伝統劇
が盛んに演じられてきた上海は、中国屈指の演劇都
市だといえよう。かの梅蘭芳も、その若き日に上海
公演を成功させたことで、名声がより高まったと言
われている。

そんな演劇都市上海に筆者が留学していたある
日、南京から京劇団が来演した。補足しておくど、
かねてから上海では通ぶる人間ほど、地元のものよ
り「本場」北京や天津の京劇をありがたがる。南京
の京劇団はといえば、ポジション的に全国でも一軍
半扱いで、当日、公演が行われた逸夫舞台の客席は
いくぶん寂しいものだった。

残念ながら演目は覚えていない『文昭関』だった
ような気がするが、老生が主演だったことだけは
間違いない。当該の南京から来た老生は、特段有名
ではなかった。歌唱もしぐさも端正だったが、強烈

な存在感を放っていたわけでもなかった。ところが、
初めは淡々と演じているように見えたものが、劇が
進むにつれ、熱気とうねりがじわじわと観る者に強
く伝わってくる。そして、とうとう最後には、圧倒
的な演技の力ですべての観客を自らの世界に取り込
んでしまった。

彼に魅了された筆者を含む観客は、劇が終わると、
長い長い拍手を送った。誰かが「再来一唱！」と叫
ぶと、ほうぼうから同じような声があがる。件の老
生は、その日演じたのとは違う演目の有名な曲を一
節、二節と求められるままに唱う。本当に優れた演
技が観客の心を揺さぶることで、自然発生的に起き
たこのアンコールの場に身を置いていたことは、筆
者にとつて、今もって最も幸福な演劇体験の一つに
数えられるものである。

余談だが、この上演からほどなくして、このアン
コールのことはローカル新聞で小さな記事になった。
ということは、やはり現地でも珍しい現象なのだろ
う。



『文昭関』の伍子胥
(楊宝森 1909-1958)

馴染みのない俳優でも良いと思えば惜しみない賛
辞を送り、名優でもちよつと手抜きをすれば冷淡な

反応をする。好みを直截に表現する上海の観客は、
そういう点はシビアである。
(ふじの なおこ 関西学院大学教授)

京都の美味しい中華のお店

ぎょうざ処 亮昌

新風館1階にあります。
京都の食材を使って、かつおだしベースの
「京都風中華」！ヘルシーですよ。

私は、アップリンクで映画を見る前に
よく行きます。

そのほか、

- ・高辻店（高辻通新町西入堀之内町 263）
- ・京都タワーサンド店
（京都タワービルB1階）
もあるそうです。(N)



中国の山旅(9)

西谷仁

中国の香港から昆明をへて紅河ハニ棚田群に行きました。そこは山道をバスで半日ばかりで登った山腹の町にありました。中国の少数民族が中央から漢族に追われ住みついて作った避地の棚田でした。一面三六〇度の棚田が山にへばりつくように延々とありました。私はフィリピンやベトナムの棚田も知っていますが、まるで比べものにならない広大なものです。まして日本の棚田など比較になりません。そこで二泊して中国の旧正月をすごすつもりでした。中国の旅行者と車で一日がかりで棚田をまわりました。丁度田に水を張った状態で田が鏡のようにキラキラ輝いていました。



そこは少数民族の村でカラフルな民族衣装の人が市場にはあふれていました。そして宿では生きたニワトリを買ってきて調理して旧正月を祝いました。夜中じゅう爆竹の音が鳴りひびいていました。ところが旧正月というのですべての交通機関が休みになり、そこに四日も滞在することになりました。やっとバスが動いて山を降りる事ができ、そこから中越の国境を越え、ベトナム、カンボジア、タイ、マレーシアを移動して帰国しました。



書呆子 (中国語で「本の虫」という意味)

「ウクライナ戦争の嘘」手嶋龍一・佐藤優著・中公新書ラクレ・二〇二三年六月一六日刊・253p。
表の帯・戦争で「利益」を得ているのは誰か？米露中北の「嘘」、打算、野望を見破れ！なぜ殺し合いを支援するのか。即時停戦以外に選択肢などない、とあります。冒頭の「利益」が、本質についています。
「嘘」・打算・野望が、共著で、「インテリジェンス」小説を刊行する等の特徴を發揮しています。裏の帯・迫りくる核戦争の恐怖を人類は回避できるのか？…：ウクライナと米国を始めとする西側諸国にも看過できない深慮遠謀がある。…：ロシアと米国を知り尽くした両著者がウクライナ戦争を巡る虚実を迫るとあります。重要点…ロシアがウクライナに侵攻した直接の目的(27p)。ロシアはルハンスク・ドネツク両首長との間で、集団的自衛権を行使できる環境が整いました(31p)。ウクライナでは…軍を統率する統帥権が確立されていない(41p)。日本のメディアが、全面的に依拠しているのは…アメリカの戦争研究所とイギリスの国防省です(43p)。ゼレンスキー政権は、途中からハードルを上げた(46p)。アメリカは…ウクライナを支援するが、本気で勝たしてしまえば、新たな世界大戦を招いて、アメリカの命取りになりかねない。だからゼレンスキーが望むようなシナリオを認めるつもりもない…アメリカによる管理された戦争(51p)。この戦争におけるアメリカの真の目的は、ロシアの弱体化です。ウクライナは、その道具にすぎません(54p)。戦争が長期化した結果、軍産複合体が濡れ手で粟で巨利を貪ることになった(65p)。シカゴ大学教授のジョン・ミヤシ

ヤイマーは、「ウクライナ戦争を引き起こした責任は西側諸国、とりわけアメリカにある」(51p)。2つの「ミンスク合意」は、ロシア軍の侵攻を阻む盾だったのですが、ウクライナは合意の実行に踏み切れず、プーチンの軍事侵攻を招いてしまった(125p)。核兵器の使用度、ウクライナ戦争と連動する台湾危機、ウクライナ戦争で「タナボタ」の利を貪る北朝鮮、食料とエネルギーの不足、戦略的連携に動く習近平とプーチン、停戦のキーワードは「中立化」、ウクライナが「3つの地域から成り立っていることを考えれば、夫々に「分離・独立」する、ウクライナ和平は、時に国際法の則を超える大胆な発想を持たなければ実現しない」極めて重要なフレーズ満載!!強く推薦します。(中本 学)



コロナ禍の台湾研究活動道中記 (第17回) 自主待機期間 (その1) 高橋孝治

隔離ホテルの一階に降り、はじめてこれまでLINEで連絡を取っていたホテルスタッフと会うことができました。「迎えの人がもうすぐ来るから、しばらくロビーで待たせてくれ」と言っただけでしばらくそこで待っていました。

しばらくして、台湾で日本人留学生向けに不動産契約代行業務をしている日本人が迎えに来ました。一緒にタクシーを呼び、この代行業者が契約してくれた家に向かいました。タクシーに乗った理由は、本連載第十五回でも述べた通り、十日間のホテル隔離が終了しても、その後一週間の自宅での自主待機期間のうちバスや地下鉄、鉄道などの公共交通機関に乗ることが許されていないためです。

そして、この代行業者の方から、当時(二〇二二年四月頃)の台湾のコロナ対策についてタクシーの中で聞きました。その内容は以下の通りです。

つい先日まで台湾に入境した際の隔離期間は、二週間であった。しかし、先日十日に短縮された、もう少し七日になるとの噂もある。ホテルでの隔離が済めばその後の自主待機期間には法的根拠はなく、お願いベースのものである。もともと入境規制は厳しくなかったものの、台湾内でフィリピン人が鍋パーティーをやったクラスタ感染が発生したこと、入出境規制が厳しくなった。以上の内容は、あくまで不動産代行業者の方が教えてくれた内容なので、真偽は分かりません。自主待機期間がお願いベースと

言いますが、お願いベースでホテルを退去する前日に「自主待機期間に、バスや地下鉄など公共交通機関に乗ってはいけない」とわざわざ言われるものなのでしょうか。「乗らないようにしてください」という言い方ではありませんでした。本連載一回目でも述べた通り、プレスリリースが根拠になるなど、台湾のコロナ対策は法的根拠がよく分からない部分があります。

このように、結局強制のものなのか、お願いベースのものなのかよく分からないのですが、筆者はしっかりと自主隔離期間も隔離ルールを守っていました。(つづく)

(2022年台湾フェローシップ採択者 / (元) 台湾・淡江大学 日本政経研究所 訪問研究員 (2022年) / 筆者出演のウェブラジオ

<https://iq.pfrinet.me/archives/category/iq>



住居に向かうタクシーの中から撮影した台北の街 (そして 10 日ぶりに見た窓から以外の台北の街でもある)

チケットのお買い求めをお願いします。←

ウクライナに平和を！カテリーナ・コンサート←
ウクライナの民族楽器バンドウーラの響きと歌←

2023年10月6日(金) 18:30開演←
京都教育文化センターホール(京大病院向い)←

会員・読者特典 2500円←

前売り 2800円←

当日 3200円←

(収益はウクライナ人道支援にあてます)←

電話・FAX・メールなどでお申込みください。チケットを郵送させていただきます。←

チケット代は同封する振替用紙で振り込みをお願いします。←

もしくは近日中にお届けする会費・新聞代納入の際にお申込み・振り込をお願いします。←

振込口座：01090-9-4988(右詰めに記入ください)←

コンサート実行委員会は日本ユーラシア協会を事務局に日中友好協会・AALA連帯委員会・日朝協会・←
日本ベトナム友好協会が構成団体です。←

太極拳教室受講生募集！お問い合わせは府連へ！

■第140期京都府連教室

期間：7月12日(水)～10月4日(水)

場所：京都アスニー2F サークル活動室
(京都市中京区丸太町通七本松角)

時間：19:00～20:30(18:30開場)

費用：入会金 3,000円(初回のみ)、
テキスト代 1,510円

受講料：12,000円(途中入会するとき受講料は1,000円
×回数。初回無料見学あり)

■中右京教室 午前

日時：第2木曜日、第4木曜日 10:30～12:00

場所：京都アスニー サークル活動室

費用：入会金 1,500円(初回のみ)

テキスト代 1,510円、受講料 2,500円 月謝

■天神川教室 月曜夜

日時：毎週月曜日(第5週目、祝日の場合はお休み)

場所：スズカケ座 京都スタジオ カルチャースクール
(京都市右京区山ノ内荒木町23-2) 市バス 京都外大前
下車 天神川四条を北へ 5分 駐車場 2台。

費用：入会金 1,500円(初回のみ)、テキスト代 1,510円
受講料 4,500円 月謝

運動しやすいゆったりした服装で 革靴、ジーンズ不可。
上靴必要。見学歓迎！申し込みは直接会場で。

京都きりえ展

8月29日(火)～9月3日(日)

(午前10時～午後18時、最終日は16時まで。)

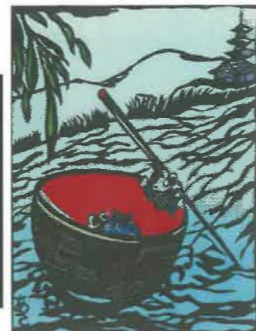
京都市美術館〈別館1階〉

(京都市左京区岡崎公園・ロームシアター京都隣)

※ 京都きりえの会 会員の作品
※ 枚方きりえ倶楽部からの友情出品あり

入場無料

岩井 清美



浅堀 登志栄

京都きりえの会

〒604-8375 京都市中京区西ノ京池之内町30-18

川越義夫会長気付 TEL (075) 822-2082